



部門別事業報告

VII 環境保健

VIII 母子保健

IX 健康支援

X 結核予防

XI 諸行事

環境保健

作業環境測定は有害物質の濃度や有害エネルギーなどの物理量を測定し作業環境の評価を行うもので、環境改善のための工学的対策を講ずる重要な情報となる。種々の有害要因を減少させ、作業環境を適正に保ち、働く人々の健康障害を防止するための作業環境管理の基本となるものである。また、公共の建築物や学校などにおける揮発性有機化合物等の測定や、ダニ又はアレルギー検査、公衆浴場などのレジオネラ属菌検査は化学物質や細菌等により健康を害することがないように管理が求められている。

■実施状況

作業環境測定（労働安全衛生法第65条によるもの又は準ずる測定）を実施した事業場は前年度と同じ延べ477事業場であった。延単位作業場は1,642箇所、その管理区分内訳は、第1管理区分が1,183箇所（全体の72.0%）、第2管理区分が204箇所（12.4%）、第3管理区分が255箇所（15.5%）であった。第2・第3管理区分を併せた459箇所（28.0%）は、作業方法の改善や工学的対策などの作業環境改善が必要となる。測定項目別では粉じんと騒音の第2・第3管理区分の割合が高くなっており、これまでと同様の傾向が見られた。

労働安全衛生法第65条によらない測定（管理濃度等が設定されていない物質、環境改善のための測定など評価基準による評価をしない測定）があり、その他としての件数が前年度より増加した（表1）。

作業環境測定以外の環境測定では、室内空気環境中の揮発性有機化合物（VOC）や石綿粉じん測定、学校衛生環境基準によるダニまたはアレルギー検査、公衆浴場等のレジオネラ菌検査を実施した（表2）。

■作業環境測定における主な採取・分析方法

対象項目	採取方法	分析方法
有機溶剤	固体捕集法	ガスクロマトグラフ法
	検知管法	
粉じん	相対濃度指示方法	重量分析法
	ろ過捕集法	
金属	ろ過捕集法	原子吸光光度法
	液体捕集法	
特定化学物質	ろ過捕集法	重量分析法, 液体クロマトグラフ法
	検知管法	
	液体捕集法	吸光光度法

■管理区分と管理区分に応じた講ずべき措置

（安衛法第65条の2第1項）

管理区分	作業場の状態	講ずべき措置
第1管理区分	当該単位作業場所のほとんど（95%以上）の場所で気中有害物質の濃度が管理濃度を超えない状態	現在の管理の継続的維持に努める
第2管理区分	当該単位作業場所の気中有害物平均が管理濃度を超えない状態	施設、設備、作業工程又は作業方法の点検を行い、その結果に基づき、作業環境を改善するため必要な措置を講ずるよう努める
第3管理区分	当該単位作業場所の気中有害物質平均が管理濃度を超える状態	①施設、設備、作業工程又は作業方法の点検を行い、その結果に基づき、作業環境を改善するため必要な措置を講ずる ②有効な呼吸用保護具の使用 ③健康診断の実施その他労働者の健康の保持を図るため必要な措置を講ずる

表1 測定件数・項目別事業場数・単位作業場所数

() 内は%

区 分 (測定項目)	測定件数 * 1	測定実施事業 場延数* 2	延単位作業 場所数* 3	延単位作業場所の管理区分内訳* 4			備 考
				第1管理区分	第2管理区分	第3管理区分	
計	13,966	477	1,642	1,183 (72.0)	204 (12.4)	255 (15.5)	
粉じん(石綿を含む)	4,073	173	475	316 (66.5)	56 (11.8)	103 (21.7)	
特定化学物質	1,101	100	153	138 (90.2)	6 (3.9)	9 (5.9)	
金 属	449	40	69	61 (88.4)	4 (5.8)	4 (5.8)	
有機溶剤	4,875	290	710	610 (85.9)	53 (7.5)	47 (6.6)	
騒 音	3,282	49	235	58 (24.7)	85 (36.2)	92 (39.1)	
その他* 5	186						評価対象外・ 分析のみ等

* 1 : 作業環境測定の結果の評価等に用いた測定点総数 (その他の項目を除く)

* 2 : 測定項目ごとの実施事業場延数 (総数は1項目以上の実施事業場延数)

* 3 : 作業環境測定結果の評価を実施した延単位作業場所の項目ごとの場所数 (単位作業場所: 作業環境測定結果の及ぶ範囲)

* 4 : 各項目における管理区分ごとの単位作業場所数及び割合

表2 作業環境測定以外の環境測定実績

名 称	根拠となる法令等	物質名等	測定件数
計			317
揮発性有機化合物 (VOC) の 室内空気環境測定	官庁管轄部における平成15年度 からのホルムアルデヒド等の室 内空気中の化学物質の抑制に関 する措置について	ホルムアルデヒド, アセトアルデヒド, トルエン, キシレン, エチルベンゼン, スチレン	71
室内空気環境中の石綿測定	学校衛生環境の基準	ホルムアルデヒド, トルエン, キシレン, p-ジクロロベンゼン	185
ダニまたはダニアレルゲン検査	学校衛生環境の基準	石綿粉じん ダニアレルゲン	4 42
レジオネラ属菌検査	公衆浴場法および同法施行条例, 旅館業法および同法施行条例に 基づく検査	浴槽水中のレジオネラ属菌	15

母子保健

赤ちゃんの病気の中には、新生児期のうちに発見し治療を行うことで心身障害の発生を防止し、命の危険を回避することができるものがある。当協会では、岩手県の委託を受け6つの病気を対象とした先天性代謝異常検査の実施と、岩手県医師会の委託を受けて胆道閉鎖症マススクリーニング検査結果の集計を行っている。いずれも早期発見・早期治療を目的としたものである。

1. 先天性代謝異常検査

■実施状況

先天性代謝異常検査は、スクリーニング検査を行い、その値により異常と要再採血、要精密検査の判定を行っている。平成18年8月より、再採血の検査対象項目が全項目に変更になっている。

平成19年度の初回検査人数は11,460人、要再採血と判定されたのはアミノ酸代謝異常5人、ガラクトース血症174人、先天性副腎過形成症84人、先天性甲状腺機能低下症116人であった（表1）。

スクリーニング時に要精密検査と判定された者、及び再採血後要精密検査と判定された者を合わせると、精密検査対象者はアミノ酸代謝異常3人、ガラクトース血症21人、先天性副腎過形成症22人、先天性甲状腺機能低下症45人であった（表1,2）。

■検査方法

生後4～6日の間に足の裏（踵）から極少量の血液を採取し、アミノ酸代謝異常であるフェニルケトン尿症・楓糖尿症・ホモシスチン尿症とガラクトース血症、先天性副腎過形成症、先天性甲状腺機能低下症の6つの病気について次の方法によって検査を実施した。

アミノ酸代謝異常：高速液体クロマトグラフィー
 ガラクトース血症：ガラクトース脱水素酵素・マイクロプレート法
 先天性副腎過形成症：酵素免疫測定法
 先天性甲状腺機能S低下症：酵素免疫測定法

表1 初回および再採血における項目別検査成績

() 内は%

内 訳	初回採血検体検査人数 11,460人			
	アミノ酸代謝異常	ガラクトース血症	先天性副腎過形成症	先天性甲状腺機能低下症
正 常	11,452 (99.90)	11,285 (98.47)	11,375 (99.26)	11,335 (98.91)
要再採血	5 (0.04)	174 (1.54)	84 (0.74)	116 (1.02)
要精密検査	2 (0.02)	1 (0.01)	1 (0.01)	9 (0.08)
再採血検体検査人数	4 (80.00)	173 (99.43)	83 (98.81)	116 (100.00)
正 常	4 (100.00)	153 (88.44)	62 (74.70)	107 (92.24)
要精密検査	0	20 (11.56)	21 (25.30)	9 (7.76)



表2 再採血および再々採血における項目別検査成績

() 内は%

内 訳	再採血検体検査人数 371人			
	アミノ酸代謝異常	ガラクトース血症	先天性副腎過形成症	先天性甲状腺機能低下症
正 常	369 (99.46)	351 (94.61)	350 (94.34)	325 (87.60)
要再々採血	1 (0.27)	0	0	20 (5.39)
要精密検査	0	20 (5.70)	21 (5.66)	26 (7.01)
再々採血検体検査人数	1 (100.00)	0	0	17 (85.00)
正 常	1 (100.00)	0	0	7 (41.12)
要精密検査	0	0	0	10 (58.82)

2. 胆道閉鎖症マススクリーニング検査

■実施状況

平成19年4月～20年3月までの出生児数は10,299人であった。スクリーニングを受診した乳児は9,157人、受診率88.9%であった。一次スクリーニングの結果、20人が二次の対象となった。そのうち、3次スクリーニングの対象となった出生児数は昨年同様0であった。

胆道閉鎖症の発生率は出生7,900人に対して1人である。早期に診断し、生後60日以内に手術を受ければ良好な予後が期待される。

■検査方法

保護者の方が便の色を調べ、見本の色調と比較して用紙に記入、1ヶ月健診の際に担当医師へ提出する。健診医により記載された色調を確認し、スクリーニングを実施する。

表 検査成績

〈 〉内は人数、()内は%

出生児数	10,299
検査人数	9,157 (88.90)
1次スクリーニング陽性者	20
2次スクリーニング結果	・異常なし〈18〉 ・未熟性に伴う胆汁うったい・敗血症の合併〈1〉 ・乳児性肝炎疑い〈1〉
3次スクリーニング対象者	0

健康支援

1. 健診の事後措置

■ 集団健診の対応

各団体が主催する事後指導会で、健診の結果説明や栄養指導などの依頼を受け対応した。
平成19年度の依頼数は、54団体256回と前年度を下回った。部門別では学校からの依頼が増えた。

表1 団体内訳

団体	団体数	回数
計	54	256
市町村	6	52
事業所	25	148
学校	23	56

表2 職種・部門別内訳

職種	地域部門	産業部門	学校部門
計	52	148	56
保健師	39	66	23
管理栄養士	13	65	33
健康運動指導士	0	17	0

■ 一日人間ドックの対応

診察終了後、保健師・管理栄養士による個別相談を実施した。
平成19年度実施数は、保健指導 7,725名、栄養指導 4,875名であった。ミニ栄養講話も実施した。

■ レディースドックの対応

診察終了後、保健師・管理栄養士による個別相談を実施した。
平成19年度実施数は128名であった。

■ 専門ドックの対応

受診後日、結果説明来協にあわせて希望者へ、保健師・管理栄養士による個別相談を実施した。
平成19年度実施数は、保健指導 144名、栄養指導 105名であった。

■ 労災保険二次健康診断の対応

二次健康診断対象者へ保健指導を実施した。
平成19年度実施数は315名であった。

2. 定期健康相談事業

事業所が職員の健康管理や健康教育のため、外部の専門機関に保健師派遣を委託する。当協会はその受け皿として事業所と委託契約を締結し、保健師を定期的に派遣している。

平成19年度、4団体へ計57回派遣した。

〔事業内容〕

- ・ 事業所職員の健康管理、健康教育
- ・ 日常の健康相談、保健指導
- ・ 健康診断の事後措置
- ・ 必要に応じ職場の巡回、環境管理のためのアドバイス、衛生委員会への参加など、産業医、事業主、衛生管理者等と密接な連携のもとに行う。

3. 相談員派遣

岩手産業保健推進センターにおける産業保健相談業務（産業衛生工学）の相談員として、平成19年度は42回派遣した。

4. 電話相談

当協会では実施している健康診断結果・検査等に関する相談や地域医療機関への情報提供等 687件の電話相談に対応した。

表 団体内訳

団 体	件 数	主 な 内 容
計	687	
市町村	306	結果の意味・受診医療機関の選択
事業所	367	結果の意味・受診医療機関の選択
学 校	14	結果の意味

5. 講演会講師派遣

平成19年度の派遣協力は、41団体171回であった。前年度と比較して、市町村からの依頼が減少し事業所からの依頼が増えた。テーマの中心は今話題の「メタボリックシンドローム予防」であった。

表 1 団体内訳

団 体	団体数	回 数	主 な テ ー マ
計	41	171	
市 町 村	13	46	ウォーキング・メタボリックシンドロームの予防
事 業 所	24	120	作業環境管理・運動の必要性・メタボリックシンドロームの予防
学 校	4	5	生活習慣病予防

表 2 職種別内訳

職 種	地域部門	産業部門	学校部門	回
計	46	120	5	
保 健 師	2	35	3	
管 理 栄 養 士	1	17	2	
健 康 運 動 指 導 士	43	27	0	
労働衛生コンサルタント	0	41	0	

6. 諸催事の協力

平成19年度催事の協力は、5団体へ103回であった。内容はヘルスアップ事業が中心であった。

表 団体内訳

団 体	団体数	回 数	主 な 内 容
計	5	103	
市 町 村	3	85	ヘルスアップ事業
事 業 所	2	18	体力測定・ヘルスアップ事業

7. 乳房自己検診法指導

乳房の模型を用いて「シコリ」に触れ、自分で見つけることができることを実際に体験させる。月1回の自己検診が、乳がんの早期発見に結びつくことを受診者に理解いただくため、乳がん検診の待ち時間等を利用し、乳がんの自己検診法を3団体へ25回指導した。その他に、一日人間ドック受診時に昼の空き時間を利用して、乳房自己検診法を指導している。

8. 研修会等の開催

健康教育研究会、VDT作業管理者講習会、基本健康診査従事者講習会および健康教育セミナーを開催した。詳細は次項『諸行事』『研修会等の開催』参照。

9. 健康げんき倶楽部

会員制のヘルスサポートシステムで、健康度評価・血液検査後、保健師・管理栄養士・運動指導士による健康づくりを全面的にサポートしている。会員は、トレーニング施設「気良楽（きらら）」の利用が可能である。平成20年8月現在の会員数は143名である。

10. 教材貸出

学校向け、一般向け、事業所向けと各種様々な内容のビデオ・CDやパネルの貸出を行っている。平成19年度、ビデオ・CD、パネル類あわせて126件貸出した。学校へのパネル類の貸出が多くなっている。

表 団体内訳

団 体	計	ビデオ・CD	パネル
計	126	45	81
市町村	2	2	0
事業所	18	14	4
学 校	106	29	77

●主な貸出教材

【ビデオ・CD】

「健康なからだをつくる食事」
「わたしたちの生活習慣病シリーズ」
「健康な体をつくる子どもの食」

【ヘルスパネル】

「健康と食生活」
「歯の健康」

●教材頒布

結核図書 567冊
その他 5冊
エクササイズボール 3個

結核予防

1. 検診事業

部門別事業報告（学校保健・地域保健・産業保健）に記載

2. 複十字シール運動の展開

複十字シール運動は結核対策事業資金造成のための募金活動である。当協会ではNPO法人岩手県地域婦人団体協議会と共同で運動を展開している。

運動期間：平成19年8月1日～12月31日

後援：岩手県、岩手県議会、岩手県市長会、岩手県市議会議長会、岩手県町村会、岩手県町村議会議長会、岩手県保健所長会、岩手県教育委員会、岩手県PTA連合会、岩手県医師会、岩手県歯科医師会、岩手県薬剤師会、岩手県看護協会、岩手県放射線技師会、岩手県臨床衛生検査技師会、JA岩手県五連（JA岩手県中央会、JA岩手県信連、JA岩手県厚生連、JA全農いわて、JA共済連岩手）、岩手県国民健康保険団体連合会、岩手労働基準協会、岩手日報社、IBC岩手放送、テレビ岩手、岩手めんこいテレビ、岩手朝日テレビ、エフエム岩手、NHK盛岡放送局、盛岡中央郵便局

実績：大型シール	531枚（579枚）※（ ）内平成18年度
小型シール	26,999枚（28,429枚）
募金総額	3,467,878円（3,697,835円）
内岩手県地域婦人団体協議会の実績	2,567,000円（2,726,000円）

3. 普及啓発、広報活動

■新聞掲載による普及啓発

掲載日：平成19年9月24日（月）

媒体：岩手日報朝刊 社会面

内容：結核予防週間告知、前年度シール募金報告

■結核予防週間（9月24日～30日）における街頭キャンペーン

名称：「盛岡市健康づくりのつどい」における「結核撲滅PRコーナー」

日時：平成19年10月13日（土）

場所：プラザおでって（盛岡市）

主催：盛岡市

協力：NPO法人岩手県地域婦人団体協議会、盛岡市地域女性団体協議会

内容：複十字シール募金、普及啓発グッズ（パンフレット、オリジナルポケットティッシュ・メモ帳・風船等）配布、パネル・ポスター展示

■ポスター・チラシ等の配布

配布場所：市町村、教育委員会、保健所、県立病院、公共施設など

■広報誌の配布

『健康いわて』第234号～第239号（財団法人岩手県予防医学協会発行） 隔月3,300部
 『複十字』 No.315～320（財団法人結核予防会発行） 隔月 400部
 『健康の輪』（全国結核予防婦人団体連絡協議会発行） 年3回110部

4. 各種会議、研修事業

会議、研修会名	開催日	開催地	参加人数
結核予防会ネットワーク事業担当者会議 COPD共同研究事務担当者説明会	平成19年5月14日	東京都	2名
結核予防会ネットワーク事業システム担当者会議	6月14日	東京都	1名
結核予防会放射線学科研修夏期コース	8月22日～24日	東京都	1名
全国結核予防婦人団体連絡協議会 並びに創立30周年記念大会	9月14日	東京都	2名
結核予防会東北・北海道ブロック会議	9月26日	青森市	8名
特定健診・特定保健指導の取り組みについての説明会	10月11日	仙台市	3名
結核予防会、日本対がん協会、予防医学事業中央会3団体共催による新しい公益法人制度及び公益認定にかかる勉強会	10月15日～16日	東京都	1名
結核予防会胸部検診対策委員会フィルム評価会	12月13日～14日	東京都	1名
第29回結核予防会事務職員セミナー	12月17日～19日	東京都	1名
結核予防会健診ネットワーク事業システム説明会	平成20年2月13日	東京都	3名
結核予防会全国支部事務局協議会総会	2月28日	東京都	1名
結核予防会国際研修視察打合せ会	2月29日	東京都	1名
結核予防会全国支部事務局長研修会 並びに全国支部事務連絡会議	2月29日	東京都	1名
結核予防会、日本対がん協会共催診療放射線技師研修会	3月12日～14日	東京都	2名
第59回結核予防全国大会	3月25日～26日	新潟市	3名

諸行事

1. 理事会、評議員会、監事会等の開催

[開催日]

(1) 理事会

■第1回理事会

[平成19年6月7日]

理事・監事・評議員の辞任、就任についての報告および、平成18年度事業報告、平成18年度決算報告、独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理機構に関わる入札について審議、議決された。

■臨時理事会

[平成19年10月2日]

社会保険いわて健康管理センター入札について審議、議決された。

■第2回理事会

[平成20年3月18日]

理事・監事の選任、平成19年度上半期定期監査についての報告および、平成20年度事業計画（案）、平成20年度収支予算（案）について審議、議決された。

(2) 評議員会

■第1回評議員会

[平成19年6月1日]

理事辞任の報告、平成18年度事業報告、平成18年度決算報告および、監事の選任、独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理機構に関わる入札について審議、議決された。

■第2回評議員会

[平成20年3月13日]

社会保険いわて健康管理センター入札についての報告および、平成20年度事業計画（案）、平成20年度収支予算（案）、理事・監事の選任について審議、議決された。

(3) 監事会

■第1回監事会

[平成19年5月24日]

平成18年度事業報告書、決算報告書や法人の財産状況、理事の業務執行状況について監査を受け、適正かつ不備がないことを認められた。

■第2回監事会

[平成19年11月26日]

平成19年度上半期予算執行状況、事業進捗状況について定期監査を受け、適正かつ順調であることを認められた。また、法人財産の状況、理事の業務執行状況についても不備がないことを認められた。

2. 学術専門委員会、小委員会の開催

[開催日]

(1) 学術専門委員会

■ウイルス肝炎対策専門委員会

[平成19年11月24日]

■眼底検診専門委員会

[平成20年2月21日]

■乳がん検診専門委員会

[〃 3月6日]

■脊柱側弯検診専門委員会

[〃 3月26日]

■呼吸器系検診専門委員会

[〃 3月27日]

(2) 小委員会

■CR、CT検診小委員会

[平成19年4月27日]

■心臓検診小委員会

[平成20年3月14日]

3. 関係者、関係機関との打ち合わせ、懇談会等

[開催日]

■県南センター胃部読影検討会

[平成20年3月12日]

■ C R 検診実施市町村意見交換会	[平成20年 2月22日]
■ 胃部読影検討委員会	[〳 3月24日]
■ 呼吸器系検診症例検討会	[〳 3月27日]
■ 県南センター医師懇談会	[〳 3月28日]

4. 関係機関担当者会議の開催

[開催日、開催地、参加人数]

<p>■ 平成19年度学校保健連絡会議 [平成19年11月28日、盛岡市、140人]</p> <p>報告事項：平成18年度学校保健分野健診・検査実施状況報告</p> <p>協議事項：平成20年度学校保健事業計画骨子（案） 平成20年度健診・検査料金（案）</p> <p>講演：「学校歯科保健と歯周病検診」</p> <p style="text-align: right;">岩手医科大学歯学部予防歯科学講座 准教授 稲葉 大輔</p> <p style="text-align: center;">「標準BMI法の小児肥満指導への活用の提言」</p> <p style="text-align: right;">岩手医科大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授 坂田 清美</p>
<p>■ 平成19年度市町村健康管理担当部課長会議</p> <p>平成19年度市町村・JA健康管理担当部課長会議 [平成19年11月2日、盛岡市、131人]</p> <p>行政報告：「平成20年度からの生活機能評価について」</p> <p style="text-align: right;">岩手県保健福祉部 長寿社会課 主査 琵琶坂 和江</p> <p style="text-align: center;">「特定健診等の実施体制整備について」</p> <p style="text-align: right;">岩手県保健福祉部 医療国保課 主任 土澤 智</p> <p style="text-align: center;">「いわて健康データウェアハウス構築事業について」</p> <p style="text-align: right;">岩手県環境保健研究センター 主任専門研究員 小野 償子</p> <p>事業説明：平成18年度健診・検査実施状況 平成19年度健診・検査実施及び予約状況 平成19年度生活機能評価の実施状況（4月～9月） 特定健康診査・特定保健指導アンケート結果 平成20年度地域保健事業計画骨子（案） 平成20年度地域保健健診・検査料金（案） 特定健康診査における循環器検査の有用性について</p> <p>報告事項：平成18年度活動報告について</p> <p>協議事項：平成20年度事業計画について</p> <p>講演：「人間ドックにおける歯周病検診の有用性」</p> <p style="text-align: right;">社団法人岩手県歯科医師会 専務理事 佐藤 保</p> <p>特別講演：「特定健診・保健指導の効果的な実施にむけて」</p> <p style="text-align: right;">財団法人結核予防会 第一健康相談所 所長 岡山 明</p>
<p>■ 平成19年度保健活動検討会 [平成20年 2月22日、盛岡市、165人]</p> <p>報告事項：平成18年度健診結果・追跡調査結果 平成18年度健診・検査実施状況 平成20年度地域事業計画骨子</p> <p>行政報告：「平成20年度の生活機能評価について」</p> <p style="text-align: right;">岩手県保健福祉部 長寿社会課 主査 琵琶坂 和江</p>

「健康いわて21プランの改訂について」

岩手県保健福祉部 保健衛生課

主 査 互野 裕子

事業説明：特定健康診査について

特定保健指導について

講 演：「特定健診・保健指導の効果的な進め方 実践編」

財団法人結核予防会 第一健康相談所 所 長 岡山 明

5. 研修会・講演会等の開催

[催開催日、開催地、参加人数]

■第23回健康教育研究会

[平成19年8月10日、盛岡市、84人]

テーマ：「アサーションの基礎知識」

統合的心理療法研究所

所 長

東京福祉大学大学院

教 授 平木 典子

■VDT作業管理者研修会

[平成19年5月15日、盛岡市、18人]

テーマ：「管理者の役割と心構え」「労働衛生管理の概論」

財団法人岩手県予防医学協会

高橋 美枝子

「VDT作業の健康への影響と健康管理」

岩手大学 保健管理センター

教 授 立身 政信

「作業環境管理・作業管理」「VDT機器及び作業環境の維持管理」

財団法人岩手県予防医学協会

VDT作業労働衛生インストラクター 大久保 伸子

「VDT作業従事者に対する労働衛生教育の方法」

財団法人岩手県予防医学協会

VDT作業労働衛生インストラクター 阿部 千恵子

■基本健康診査従事者講習会

[平成20年2月4日、盛岡市、45人]

実 習：「心電図・眼底検査について」 —詳細健診として実施されることの問題点—

財団法人岩手県予防医学協会

米澤 慎悦

「心電図検査実習」 —健診で見逃してはいけない心電図—

財団法人岩手県予防医学協会

腰山 誠

「眼底検査実習」 —眼底検査所見の見方と撮り方—

財団法人岩手県予防医学協会

高橋 直光

講 義：「糖代謝について 最近の動向」

岩手医科大学 糖代謝内科

教 授 佐藤 譲

■健康教育セミナー

[平成20年1月11日、盛岡市、29人]

テーマ：「コーチングの基礎知識」

日本コーチ連盟

森山 展行

■女性のための健康講座

[平成19年7月20日、一関市、140人]

テーマ：「乳がんを負けないために」

講 演：「乳がん検診と薬物療法について」

岩手県立胆沢病院

乳腺外科長

竹花 教

■市民健康講座 [平成19年11月24日、盛岡市、105人]
 テーマ：「守ろう わたしの肝臓 家族の肝臓」
 講演：「賢いC型肝炎の治療のうけかた」
 岩手医科大学内科学第一講座 阿部 弘一
 基調講演：「C型肝炎対策の現状と残された課題」
 一病因論に基づいた肝がん対策をめぐって—
 広島大学大学院疫学・疾病制御学 教授 吉澤 浩司

■平成19年度東北地区結核予防婦人団体幹部研修会
 岩手県地域婦人団体協議会結核予防研修会 [平成19年7月12日～13日、花巻市、520人]
 リレートーク：「いま、結核予防は？健康は？」
 コーディネーター … 結核予防会岩手県支部 企画管理部長兼健診部長 松尾 洋一
 発 言 者 …………… 岩手県保健福祉部保健衛生課 主任主査 藤尾 修
 財団法人結核予防会 事業部長 山下 武子
 結核予防婦人会秋田県連合会 副会長 小玉 喜久子
 岩手県地域婦人団体協議会 理 事 多田 静子
 特別講演：「結核予防婦人会の発展と今後の展望」
 財団法人結核予防会 会 長 青木 正和
 記念講演：「ハチローの頑固でゆかいな子育て仕事ぶり」
 サトウハチロー記念館・叱られ坊主 館 長 佐藤 四郎

■平成19年度予防医学事業推進東北ブロック会議 [平成19年9月27日、青森市、22人]
 ■第12回医用超音波基礎講習会 [平成20年1月12日、盛岡市、47人]

6. 研究事業

■岩手県北地区コホート研究への参加
 目的：地域発症登録、人口動態データ、介護保険情報を利用して各疾患の発症率および死亡率の把握、リスクに関する検討を行う。
 対象：岩手県北3保険医療圏の基本健康診査受診者中研究に同意した26,477名
 方法：ベースライン調査（平成14年～16年度） 追跡調査（平成14～最低5年間以上）

7. 普及啓発および広報活動

- (1) 普及啓発活動
- 結核予防週間における街頭キャンペーン、新聞広告掲載、市町村健康まつりへの協力
 - ポスター・チラシ等の配布
- (2) 広報活動
- 広報誌の配布
- | | | |
|---------------------|---------------------|-----------|
| 『健康いわて』 第228号～第233号 | （財団法人岩手県予防医学協会発行） | 隔月 3,300部 |
| 『複十字』 No.309～314 | （財団法人結核予防会発行） | 隔月 400部 |
| 『健康の輪』 | （全国結核予防婦人団体連絡協議会発行） | 年3回 110部 |

8. 中国地域保健農村生活改善研修訪日団の受け入れ

[受入期間]

訪問先と主な研修内容

[平成19年7月2日～6日]

■岩手県庁

表敬訪問、岩手県の保健行政について研修
岩手県農林水産部で農業技術、農村生活改善等の概要研修

■西和賀町

町の母子保健活動について研修
住民健診活動見学
特別養護老人ホーム等の施設見学
農協取り組み、農業施設視察等の研修
沢内病院見学

■紫波町立赤石小学校

学校における保健衛生カリキュラムについて研修
授業参観、児童との給食、懇談

■岩手中央農協

■葛巻町

葛巻町農林環境エネルギー課で研修
保健センターで研修
農家訪問

■岩手県予防医学協会

施設の見学

9. 職員研修

[実施回数、参加人数]

■内部研修会の実施

交通安全講習会（新人職員、新採用臨時職員）	[1回、 43名]
安全運転講習会（本所にて）	[2回、111名]
（県南センターにて）	[1回、 55名]
人事考課制度に係る評価者訓練	[2回、122名]
第29回研究発表会	[1回、 —]

■外部研修会への参加

〈主催別内訳〉

(財)予防医学事業中央会関係研修会	[7回、 23名]
(財)結核予防会関係研修会	[8回、 14名]
(社)全国労働衛生団体連合会関係研修会	[12回、 26名]
(社)日本作業環境測定協会関係研修会	[6回、 9名]
その他	[124回、203名]

〈職種別内訳〉

医師関係	[12回、 15名]
保健師関係	[14回、 21名]
臨床検査技師関係	[49回、 75名]
放射線技師関係	[16回、 29名]
作業環境測定士関係	[6回、 9名]

看護師関係	[10回、 17名]
栄養士関係	[5回、 11名]
事務関係	[62回、 98名]

10. 研究発表等

[開催日、開催地]

- 日本臨床検査医学会東北支部総会 [平成19年6月30日、仙台市]
『メタボリックシンドロームの発症におよぼす非アルコール性脂肪肝の影響』 折坂 美知子
- 第45回日本消化器がん検診学会東北地方会 [平成19年7月14日、弘前市]
『検診時に経験した3症例（症例検討会として）』 佐藤 務
『超音波検査の「脂肪肝」拾い上げ基準の検討～拾い上げ基準の共有化を目指して～』 半田 有希
- 第48回日本人間ドック学会学術大会 [平成19年8月30日～31日、東京都]
『肝機能マーカーレベルとメタボリックシンドロームの関連性』 折坂 美知子
- 第48回東北医学検査学会 [平成19年9月29日～30日、盛岡市]
『唾液中ヘモグロビンおよび唾液中乳酸脱水素酵素の基本的検討』 川原田 司
『唾液検体を用いた歯周病スクリーニングの検討』 畠山 秀樹
『メタボリックシンドローム出現率に関する一考察—児童・生徒および成人を対象として—』 高橋 ゆかり
『超音波併用検診が有効であった乳癌の3症例』 相馬 明美
- 第15回岩手医用画像研究会 [平成19年10月6日、盛岡市]
『C R肺がん検診成績（10年間）の報告』 藤原 幸治
- 第90回岩手腹部超音波研究会 [平成19年10月26日、盛岡市]
『検診時に経験した3症例』 佐藤 務
- 第17回日本乳癌検診学会総会 [平成19年11月21日～22日、横浜市]
『マンモグラフィで指摘しえなかった乳癌の3症例』 相馬 明美
- 第54回日本臨床検査医学会 [平成19年11月22日～25日、大阪市]
『随時血糖値による糖尿病発症リスクのスクリーニング』 折坂 美知子
『メタボリックシンドロームと唾液中歯周病マーカーレベルの関連性』 折坂 美知子
- 第85回岩手消化管撮影研究会 [平成19年12月7日、盛岡市]
症例検討 久保田 憲宏
- JSS東北 第7回地方会（日本超音波検査学会） [平成20年1月13日、仙台市]
『健診で発見され冠動脈バイパス術施行となった大動脈炎症候群の一例』 腰山 誠
- 第18回日本疫学会学術総会 [平成20年1月25日～26日、東京都]
『3年間の喫煙によるバイオマーカーの経時的変化』 斗成 陽子

- 第42回予防医学技術研究会議 [平成20年2月29日～3月1日、静岡市]
『超音波検査の脂肪肝拾い上げにおける基準統一の検討～より再現性のある検査を目指して～』
半田 有希
『健康診断（成人）で確認されたBrugada型心電図の検討』
足立 育子
『閉塞性換気障害と喫煙および慢性自覚症状との関係』
穴沢 真由美
『メタボリックシンドローム基準では検出できない心電図至急連絡』
本堂 千津子
『メタボリックシンドローム関係因子と血液検査値との関連性』
久保 祐子
『岩手県における歯周病唾液検診システムの構築について』
高島 研二
『学校心臓検診における心エコー図検査（携帯型）の有用性』
米澤 慎悦

- 第27回岩手糖尿病研究会 [平成20年3月1日、盛岡市]
『メタボリックシンドローム有病率の比較—腹囲基準を変えてのシミュレーションを中心に—』
畠山 秀樹

- 第4回東北超音波健診懇話会 [平成20年3月22日、仙台市]
『多方向走査の重要性を痛感した腎腫瘍の一例』
金子 義則
『腹部超音波検査による膵臓所見拾い上げの現状』
半田 有希

- 肝炎等克服緊急対策研究事業（肝炎状況・長期予後の疫学に関する研究）の報告
「HCVキャリアを見出すための検査手順」の妥当性の検証と
岩手県における肝炎ウイルス検診の受診状況について」
小山 富子

11. 事業年報の発行

- 平成17年度事業年報 Vol.35 の発行 2,200部
■平成18年度事業年報 Vol.36 の発行 2,100部

12. 各種表彰の受賞

- (財)予防医学事業中央会関係
10月5日、予防医学事業推進全国大会の席上で佐々木純子、岩崎二三男が奨励賞を受賞
■(社)全国労働衛生団体連合会関係
5月31日、平成19年度全衛連通常総会の席上で山崎勉が功績賞を受賞
11月20日、全衛連運営研究協議会の席上で山崎浩子、近谷真由美が奨励賞を受賞
■(社)日本作業環境測定協会関係
11月15日、第28回作業環境測定研究発表会の席上で関向和明が第27回作業環境測定研究発表会発表演題優良賞を受賞

13. 社会的貢献活動

■AEDの寄贈

岩手県教育委員会	平舘高等学校	他11台	藤沢町	藤沢中学校	他2台
矢巾町	煙山保育園	他2台	軽米町	ふれあいセンター	他2台
滝沢村	滝沢村役場健康推進課	他2台	紫波町	片寄小学校	他2台
金ヶ崎町	第一小学校	他2台			